重胤　邦胤が殺されたとき、長子重胤は一〇歳であった。邦胤ははじめ北條氏直の女をめとり、一女子をあげたが早世したので、その後、上野の岩松（新田）治部大夫の姉を迎えた。此の助成が重胤の生母である。原若狭守・同大炊助父子は、幼少の重胤を補佐し、実質的に、後北条傘下の下総における中心的な勢力となった。なお、邦胤没後の千葉の家臣団は、後北条氏より直接、書状や定書などをうけとるようになり、千葉氏の名は消えていった。天正十六年（一五八八）、重胤は北条氏直に招かれて小田原に赴き、城内で養育された。これは見掛けのよい人質であり、天正十八年（一五九〇）三月には重胤の生母岩松氏も身柄を小田原に移されている。後北条氏は氏直の弟、七郎氏時を本佐倉城に下向させ、下総を直接支配下におこうとしたのであろう。しかし、それも束の間のできごとであり、同じ天正十八年三月には豊臣秀吉による小田原征伐の動員令が諸大名に下されていたのである。